

鈴鹿市立合川小学校					
評価項目	本年度の活動（具体的な手立て）と指標	達成状況	成果と課題	学校関係者評価	今後の改善点
学力向上	1 授業改善 ・わかる授業をめざした指導方法の工夫・改善に取り組む。 (児童アンケート「授業の内容は、よくわかりますか」95%以上) (保護者アンケート「学校は、確かな学力の育成をめざし、わかりやすい授業に努めていますか」95%以上) ・全国学力・学習状況調査及びみえスタディ・チェックの結果分析を行い、授業改善に活かす。 (県平均以上)	○児童アンケート95% [100%] ○保護者アンケート100% [99%] ○全国学力・学習状況調査 国語64(64), 算数79(69) 第1回みえスタディ・チェック 4年○ 国語59.8(56.8), 算数 61.1(59.0) 5年● 国語54.6(60.8), 算数 50.0(57.0) 理科45.0(50.9) (): 県平均	○低中高学年で1学年ずつ、国語科の授業研究を行った。教育指導課より指導主事を招請し、全教員で指導方法について研究討議し、研修を深めた。また、その他の学年でもブロック研修を行い、互いの授業を見合い、研修に努めた。 ○2学期より、月1回程度、自主的な学習会を行い、日々の授業実践を教員同士で、共有し、それぞれの授業に活かした。 ○夏季休業中に全教員で、全国学力・学習状況調査の分析を行い、本校児童の強みと弱みを把握し、重点的に指導する内容や学年間の系統性を確認し、2学期以降の授業に活かした。	・教職員のスキルアップに今後も務めてほしい。 ・緊急事態宣言等で休業になったが、クロムブックをうまく活用し、授業を進められたと思う。 ・学力向上に向けての先生方の取組がよく見られた。コロナ過での対応、個々への対応、いろいろな角度から子どもたちを見て、根気よく接していると感じた。 ・本校の特殊性を活かした授業を行ってほしい。	・引き続き指導主事を招聘し、国語科の授業研究に取り組む。また、自主的な学習会を定期的に開催し、それぞれの実践を交流し、それぞれの指導に活かす。 ・全国学力・学習状況調査やみえ・スタディチェックの結果分析を行い、課題を共有し、課題克服に取り組む。 ・ICTを活用した指導をさらに充実する。
	2 英語教育の推進 ・児童に満足度の高いコミュニケーション活動を提供する。 (児童アンケート「英語の授業や活動は楽しいですか」95%以上)	○児童アンケート99% [97%]	○3年生以上で外国語活動・外国語科の授業指導案を毎時間作成し、教員同士で授業内容について共有し、活動内容を充実させた。 ○イングリッシュタイムやレインボーホール前の掲示等、日ごろから児童がALTや英語に慣れ親しむ機会を設けた。	・校内の掲示等、自然と英語に触れる環境になっている。 ・児童から「楽しい」と評価されることは一番大事なことと思う。低学年は楽しい和気あいの英語授業を行ってほしい。 ・以前より英語教育に取り組んでいたこともあってか、他校に比べて英語に対する親しみがあると思う。	・これまでの取組を活かして外国語科・外国語活動の授業を実践する。 ・引き続き、校内掲示やイングリッシュタイム等を活用し、低学年にも英語に親しむ機会を提供する。
	3 家庭学習の定着 ・宿題や自主学習の指導を通して、家庭学習の習慣化と定着を図る。 (児童アンケート「[15分×学年]の時間、家で勉強していますか」90%以上)	●児童アンケート88% [80%]	○今年度よりノーメディアウィークを家庭学習強化週間とし、家庭学習に重点を置いたことで、児童も保護者も取り組みやすいという感想をいただいた。 ○自主学習ノートを1か所にまとめて掲示することで、どの学年の児童も見ることができるようになった。 ●家庭学習が定着している児童と定着していない児童の差が大きい。	・引き続き達成状況の向上に努めてほしい。 ・両親がフルで働いてみえる家庭は家庭学習をするのは難しいのでは・学童での勉強も家庭学習としてみなすのはどうか。 ・家庭での取り組み方も日時設定されるとわかりやすくて良いと思った。	・引き続き、家庭学習強化週間や自主学習の取組を継続し、家庭学習の定着を図る。また、クロムブックを活用した家庭学習も工夫する。 ・学校だより等で保護者にも家庭学習の大切さについて伝え、協力をお願いする。
	4 外国人児童の日本語指導の推進 ・JSLバンドスケールを活用し、日本語指導を推進する。 (JSLバンドスケール結果の検証)	○個別の指導計画に従って、日本語指導を実施。バンドスケールを3学期に実施。	○対象児童の学習状況を日本語指導員と共有しながら、個別指導を進めることができた。	・よくできていると思う。 ・外国人児童が学びやすいように続けていってほしい。	・引き続き、教育委員会と連携し、外国人児童の日本語指導を行う。
豊かな心の育成	1 児童会活動の充実 ・学校行事や児童会活動、たてわり班活動などで、児童一人ひとりに「出番・役割・承認」の場や自他の違いやよさを認めさせる場を設け、自己肯定感を高める。 (児童アンケート「自分にはよいところがあると思いますか」90%以上)	●児童アンケート78% [86%]	●昨年度に引き続き、行事の中止や内容の見直しがあったが、様々な場で一人ひとりの児童に活躍の場を与えるようにし、教職員も児童の頑張りを認めるようにしているが、アンケート結果に結びついていない。	・人数が少ない分、役割も出番も多くさまざまな経験ができるので良い。行事が少なかったので一人ひとりが活躍する場がやはり少なかったと思う。コロナ対策も必要だが、できるだけ行事を実施してほしい。 ・日常生活の中でも、他者から認められる自分の優れていることに気づけると良い。	・今後も様々な制限が予想されるが、その中でも児童が主体的に活動できる活動を工夫していく。 ・行事だけでなく、授業や日常生活の中でもひとり一人に「出番・役割・承認」の場や自他の違いやよさを認められる場を設定し、積極的に児童を認めていく。
	2 自発的なあいさつの推進 ・あいさつ、チャイムを守った行動に重点を置き、教師が率先して取り組む。 (児童アンケート「自分から進んで気持ちのよいあいさつをしていますか」100%) (児童アンケート「チャイムが鳴ったら、席について勉強の用意をしていますか」100%)	●児童アンケート あいさつ91% [97%] チャイム91% [96%]	○児童会も11月・12月の月目標を「気持ちよくあいさつをしよう」として、各学年で具体的な取組を話し合い、「あいさつチェック」の取組を行った。 ●マスクをつけての登下校のため、あいさつの声は小さくなっている。	・地域内で児童とすれ違う際にも、元気よくあいさつをしてもらうことが多い。 ・マスク生活とあいさつの両立は難しい。 ・あいさつの声は小さいが、目と目を合わせて挨拶してくれる子がほとんどである。 ・あいさつの声が小さくなっている。	・児童会と協力してあいさつの定着に取り組む。 ・引き続き、教師が率先してあいさつとチャイムを守った行動に取り組む。
	3 特別支援教育の充実 ・「すずかつ子ファイル」に基づく教育を行うとともに、ファイルの見直しを図る。(毎学期) ・特別支援学級籍児童への理解を深める取組を進める。 (各学年1回以上)	○毎学期実施 ○全学年で実施	○特別支援学級籍児童の体や成長の特性や学級での学習や活動の様子を伝えることで、今まで以上に特別支援学級籍の児童のことを理解することができ、他学年の児童との関わりが増えた。	・違うことを認め合えることは、心豊かになれることだと思う。 ・とても充実していると思う。 ・パラリンピックもあり、いろいろな方向から感じたことがあったのではないかなと思う。	・個別の指導計画を教職員で共有し、ひとり一人の特性に合った指導に努める。 ・特別支援学級籍児童理解授業を引き続き実施する。
	4 多文化共生教育の推進 ・多文化共生の授業を行う。 (各学年1回以上)	○各学年で、多文化共生・国際理解の授業を実施	○レインボーホール前の掲示板にも「国紹介コーナー」を設け、2か月ごとに国を変更し、有名な観光地や、名物、動物、衣食住の文化などの写真を掲示している。	・いろいろな人がいたらいろんな考えが出てくる。違う考えを認め合えたら認すばらしい。 ・国際理解の授業を行っておるのは良い。 ・ALTの先生に母国の話をしてもらってはどうか。	・引き続き、各学年で多文化共生・国際理解に関する授業を工夫する。

評価項目	本年度の活動（具体的な手立て）と指標	達成状況	成果と課題	学校関係者評価	今後の改善点
安全安心な学校づくり	1 新たな不登校を生まない学校づくり ・教職員と子ども・子ども同士の温かい人間関係づくりに努める。 (児童アンケート「学校は楽しいですか」100%) ・日ごろから保護者との関わりを持ち、気になることがあれば早めに家庭訪問等を実施する。 (保護者アンケート「学校は、お子さんに対して親身になって対応し、一人ひとりを大切にされた教育活動を行っていますか」100%)	●児童アンケート94% [99%] ●保護者アンケート99% [97%]	○欠席が続く児童には、担任が保護者と連絡を密にとっている。登校を渋る児童には、担任だけでなく管理職や養護教諭が関わりを持つほか、全職員で情報を共有し、見守っている。また、欠席が続く児童には、クロムブックを活用し、授業の様子を配信している。	・不登校の真の原因が隠れている場合が多いと思う。「見守っている」間に良くはならず、悪くなることもあると思う。 ・子供たちの夢とか好きなことを把握し、情報提供をしていくことが必要。 ・病欠などで2日休んだ時にも、電話で様子を聞いてくれる対応に先生方の対応がよくわかり、ありがたく思った。	・引き続き一人ひとりの児童に寄り添い、児童の思いを把握し、全職員で情報を共有し、全職員で対応する。 ・児童が目標をもって学校生活を送れるよう、外部講師を活用し、様々な体験の機会を提供する。 ・保護者とも連絡を密にとり、児童の家庭での様子を把握する。
	2 いじめのない学校づくり ・人権教育を基盤とした集団づくりに取り組み、子ども同士のつながりを深める。 ・情報共有を徹底し、いじめをはじめとした問題行動の未然防止・早期発見・早期対応に努める。 (児童アンケート「いじめはどんなことがあってもいけないことだと思いますか」100%) (保護者アンケート「学校は子ども同士のつながりを大切に、いじめのない笑顔あふれる学校にするために努めていますか」95%以上)	○児童アンケート100% [100%] ●保護者アンケート94% [97%]	○児童アンケートでは100%であったが、学期ごとに実施するいじめアンケートでは毎回いじめを訴える児童がいる。いじめを訴えた児童にはきめ細やかに対応し、保護者にも連絡をしている。 ●新型コロナウイルス感染症のため、1学期の授業参観・学級懇談会が実施できなくなるなど、担任が保護者と顔を合わせる機会が少なかった。	・いじめる児童も「いじめはいけない」と答えると思う。同じ行為でも何も気にしない児童もいると思う。 ・徹底的に話を聞き、改善していかなければならない。 ・いじめの自覚がない児童がいると思うので、聞き取りを十分にしてほしい。 ・少人数の学校なので、小さいいじめも早くから見えてくることが多いように感じる。	・学級活動や委員会、縦割り班活動など児童同士のつながりを大切にされた教育活動を引き続き行う。 ・各教職員が児童一人ひとりとの関わりに努め、児童理解に努める。児童の情報を共有し、すべての児童が安心して学べる環境をつくる。
	3 登下校の安全確保 ・PTAやきずなの会等と連携し、登下校時の児童の安全確保に努める。 (児童アンケート「地域の人に見守られていると感じますか」100%)	●児童アンケート96% [96%]	▲児童アンケートでは100%は達成できなかったが、きずなの会や保護者の方に登下校を見守っていただいているおかげで、今年度も交通事故や不審者情報は1件もなかった。また、PTAでバンダマークも貼り換えていただいた。	・合川地区の地域の力を感じる。 ・地域の方の見守りの姿を見かける。ありがたいと思う。 ・今年度のPTAはいろいろな活動に積極的に取り組んでいた様子が見受けられる。 ・きずなの会との交流がなかった。	・きずなの会やPTAと連携して、登下校の安全確保に努める。 ・きずなの会との情報共有に努める。 ・次年度は保育所の仮園舎が運動場にあるので、坂道の安全により注意を払う。
	4 防災教育・安全教育の推進 ・防災訓練及び安全教室を実施し、危険の予知・予測や判断力を高め、自分の命は自分で守れる児童を育てる。 (防災訓練年3回、安全教室2回実施) (保護者アンケート「学校は、子どもの安全確保を配慮して教育活動を行っていますか」95%以上)	○防災訓練2回実施、3学期にも実施予定 ○自転車の乗り方教室と連れ去り防止訓練を実施 ○保護者アンケート100% [99%]	○引き渡し訓練は今年度も実施できなかったが、防災訓練・安全教室は実施方法を工夫して実施することができた。	・今後も続けて実施してほしい。 ・危険予知について話し合う授業を行ってほしい。	・防災訓練だけでなく、安全教育の授業を計画的に実施し、危険予知能力を高める。 ・引き続き子どもの安全を第一に考えて教育活動を行う。
開かれた学校づくり	1 鈴鹿型コミュニティ・スクールの推進 ・学校運営協議会での話し合いを基に、学校、地域、保護者が協働した学校づくりを進める。 (保護者アンケート「学校は、地域や保護者に信頼され、地域とともにある学校に向けて努力していますか」95%以上)	○保護者アンケート96% [96%]	○今年度も、学校運営協議会で学校の課題等を熟議しながら教育活動を進めることができた。 ○新型コロナウイルス感染症予防のため、今年度も地域の人たちと児童が触れ合う機会が少なかったが、赤丸タイムは実施方法を工夫して実施することができた。	・コロナ対策をしつつ、開かれた学校づくりを進めることは難しいが、できることを少しでも行うことで次につながると思う。 ・他の学校の事はわからないが、合川が一番地域とのかかわりが大きいと思う。 ・赤丸タイムについて、創意工夫があった。 ・地域の方との触れ合いがコロナでほとんどなくなってしまったのが残念。	・引き続き、学校運営協議会での熟議を大切に、地域や保護者とともにある学校づくりを進めていく。 ・地域との関わりを大切に、教育活動を行う。
	2 情報発信の推進 ・学校だより・学年通信・ホームページ・メール配信などを活用し、情報発信に努める。 (保護者アンケート「学校は、学校だより・ホームページ・メール配信等で、積極的な情報発信に努めていますか」95%以上)	●保護者アンケート94% [93%]	▲学校だよりでは、学校行事・各学年の学習の様子等を詳細に掲載し、地域への回覧やホームページに掲載して発信している。 ○緊急を要するものは、メール配信を活用している。	・SNS等による情報発信を、これからも活用してほしい。 ・もっとホームページを更新してほしい。	・引き続き、保護者や地域のニーズに合った情報発信に努めていく。
教職員の働き方改革	1 教職員の総勤務時間の縮減 ・一人当たりの月平均時間外労働時間 30時間以下 ・年360時間を超える時間外労働者数 0人 ・月45時間を超える時間外労働者の延べ人数 0人 ・一人当たりの年間休暇取得日数 22日以上 ・設定した日の定時に退校できた職員の割合 90%以上 ・放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合 70%以上	○月平均時間外労働時間25.8時間 [25.9時間] ・年360時間超え時間外労働者4人 [6人] ●月45時間超時間外労働者延べ9人 [14人] ・年間休暇取得日数22.7日 [20.4日] ●定時退校日実施率77.4% [85.0%] ●60分以内に終了した会議23% [22%]	▲月45時間超時間外労働者は減少しているが、月平均労働時間はほとんど変わっていない。留守番電話を導入するなど、教職員の意識は変わりつつあるが、業務が多いため、なかなか時間外労働時間は減らない。 ●60分以内に終了した会議の割合が低いため、クロムブックを活用するなど会議の持ち方を考える必要がある。	・教員が憧れの職業になることを願う。 ・一般企業においても、働き方改革については20年以上前から問題になっていた。効率の改善は日々大事なことだと思う。 ・平日に学校を訪問すると教職員の会議とか研修での出張が多いことに気づいた。 ・少人数の職場だからこそ、仕事の負担軽減を考える必要があると思う。	・校務支援システムを活用し、会議の在り方を見直し、回数・時間の短縮に努める。 ・特定の教員に業務が集中しないように、校務分掌を割り振る。遂行状況を把握し、必要に応じて業務の割り振りを行う。